

当院におけるタスク・シフト/シェア事業の推進 ～採血室業務における静脈路確保～

◎高木 まゆこ¹⁾、片倉 友美¹⁾、尾田 真一¹⁾
社会医療法人財団 董仙会 恵寿総合病院¹⁾

【はじめに】令和3年10月1日より、医師の働き方改革を進めるためのタスク・シフト/シェアのために「臨床検査技師等に関する法律施行令の一部を改正する政令」が公布され、石川県臨床衛生検査技師会でも同年12月26日に第1回の実技講習会が開催された。

当院では令和4年度の病院目標として「タスク・シフト/シェアの推進」が掲げられ、各部署は自部署の目標ならびに個人目標としてタスク・シフト/シェアに関する項目を落としこみ、それぞれの活動を展開した。当課においては診療放射線課と協働し、「静脈路確保」の手技習得に向けた活動を行った。今回はその取り組みについて報告する。

【目的】臨床検査技師の業務範囲拡大を図り、外来看護師の業務負担軽減に繋げる。そのためにも安全かつ円滑に静脈路確保を習得できるような院内教育研修プログラムを構築する。

【研修プログラム】安全かつ円滑な教育研修プログラムの構築に向け、他職種（放射線技師、看護師、医療安全管理者、感染管理者）と協議し、以下の研修プログラムを作成した。

- 〈知識編〉 ①末梢静脈路確保について基礎知識に関する講座を受講
②感染管理・医療安全・神経損傷について講義動画を受講
- 〈手技編〉 ③シミュレーターを用いた模擬研修（チェック1）
④職員同士での実技研修（チェック2）
⑤看護師見守りのもと、患者への実施（チェック3）

※手技編③、④、⑤はチェックシートにて看護師による実技評価を受ける

研修プログラムは院内研修スケジュールに従い順次実施し、静脈路確保チェックシートを用いて看護師による評価を受ける。

【結果】現在、当院のタスク・シフト/シェアに関する厚生労働大臣指定講習会実技研修の修了者は25名、そのうち院内教育研修プログラムは20名が修了した。令和4年8月から令和5年6月までに臨床検査技師が実施した静脈路確保は197件である。

今回、静脈路確保の手技習得に向け、看護部をはじめとした多職種で取り組み活動することができた。一般的な採血業務とは異なる工程に慣れないこともあり苦労したが、模擬研修・実技研修の評価を一貫したチェックシートを用いて行ったことで、統一された手技を習得できた。また、課員へのアンケート調査を基にマニュアルの更新や新たに手技動画を作成し院内メール等で配信、いつでも閲覧、視聴できるよう調整した。

【課題】殆どの課員が院内教育研修プログラムを修了し静脈路確保を行っているが、現状、実施件数に技師間で大きな差ができてきた。要因の1つとして、中央採血室の多忙時では業務効率を優先するため臨床検査技師は一般採血を、看護師は静脈路確保を優先してしまい手技向上に繋がらない。もう1つは、課員の意識の問題が挙げられる。本活動は静脈路確保を一般採血のように定着化させることを最終目標と定めているが、多くの技師は院内教育研修プログラム修了が目標の到達点となっており、目標達成後は静脈路確保に取り組む姿勢が消極的である。これらの問題点に対し現在対策を検討している。

【結語】今回の活動を通して、人員不足により業務過多となっている看護師とのタスク・シェアの第一歩を踏み出すことができたと考える。この一歩が臨床検査技師の更なる業務拡大に繋がることが期待される。

恵寿総合病院 臨床検査課（0767-52-3211）